



横浜市立

中川西小学校

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/nakagawanishi/>

令和5年9月29日発行
学校だより 10月号



秋の七草 ～牧野富太郎～

校長 村越直之

今週(9/25～)は涼しい日もあり、「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉の通りに季節が移ろいつつあります。ようやく運動会練習を安全に実施できる気候になってきました。

黄金色の田んぼを眺めながら散歩しているときに、畔(あぜ)に秋の七草の一つである女郎花(オミナエシ)を見つけました。どうしても残りの6種の花全てを思い出したくなり、高校時代に勉強した山上憶良の有名な歌を検索し、懐かしく感じながら何度も音読してみました。春の七草と比べると、なぜか覚えにくいです。

やまのうえのおくら
山上憶良

- 秋の野に 咲きたる花を 指折り かき数ふれば 七種の花
- 萩の花 尾花 葛花 なでしこの花 女郎花また藤袴 朝貌※の花

これらの歌の検索途中で牧野富太郎(NHKのドラマの主人公のモデルとなった日本の植物分類学の父)が秋の七草について講演した記録が国立国会図書館に所蔵されていることがわかり読んでみました。(インターネットで閲覧できます。)

最後の「朝貌※」は、現在では「桔梗」でほぼ間違いないとされていますが、牧野はいわゆる「アサガオ」ではない理由を、山上憶良が歌を詠んだ時期と、「アサガオ」が大陸から渡来した時期との相違を挙げて説明しています。その他にも「萩」の字の成り立ちや「葛」の名前の由来などが紹介されていて、なかなか興味深いです。

また、次のような自作の歌(都々逸)を紹介しています。

- 赤黄紫さまざま咲いて どれも可愛い戀の主 (戀…恋の旧字体)
- 草を褥に木の根を枕、花と戀して五十年 (褥…敷物、敷布団)

五十年にわたって草花を採集しその細密な絵を描き、一生を植物の研究に捧げた牧野の思いが表現されていて、この歌はドラマで見た「万太郎」そのものだと感じました。



気持ちよく運動や読書、学習に取り組める季節になりました。学校では、子ども達が運動会練習に汗を流しています。また、校外での活動も行われています。今月も子ども達が安心して充実した学校生活を送れるよう努めてまいります。保護者、地域の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。